



学校だより

第354号
令和4年9月30日
横浜市立六浦南小学校

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mitsuuraminami/> Tel.785-3244 Fax.783-6984

一人ひとりの今後を考えるための「あゆみ」へ

校長 柏原 奈保

本校には、毎月の「今月の歌」というものがあり、朝の会や音楽の際に子どもたちが歌っています。9月は、「しあわせになあれ」（作詞・作曲 弓削田健介）という曲でした。「名前」は、それを付けてくれた人が願いをこめた贈り物、「しあわせになあれ」と願ってつけてくれた贈り物だという歌詞です。「しあわせになあれ」ときれいな高音のメロディーが繰り返されます。この曲を作った弓削田健介さんは、旅先で出会った人が教えてくれた毛里武さんの「名前は祈り」という詩に感動したことをきっかけにこの曲を作ったそうです。

わたしの「名前」の「なお」は、両親の「すなおな人になってほしい」との願いが込められています。子どもたちの美しい歌声、「しあわせになあれ」に包まれると、温かい気持ちになります。両親の「願い」を思い出します。そして、「自分は両親の願った人間に近づけているのかな」と考えます。

子どもたちも、みな、それぞれに願いを込めた「名前」が付けられていることでしょう。この曲が、その美しい「祈り」を感じるきっかけになったらなと感じる今日この頃です。

名前は祈り

毛里 武

名前はその人のためだけに
用意された美しい祈り
若き日の父母が
子に込めた願い

幼きころ 毎日、毎日
数えきれないほどの
美しい祈りを授かった

祈りは身体の一部に変わり
その人になった

だから 心を込めて呼びかけたい
美しい祈りを

さて、10月7日で前期が終わります。この日、子どもたちの成長の様子を「あゆみ」でお伝えします。

教員になって間もないころ、『あゆみ』がなかったら、いい仕事なのになあ』と思ったことがありました。どの子も、その子なりにがんばっている。それを「1・2・3」や「A・B・C」、「O」で表すことに難しさを感じていました。子どもによってはがんばりを認めていないように伝わってしまうのではないかと。そのころのわたしは、「あゆみ」を「できている」「できていない」の結果を伝えるだけのもののように感じていたのかもしれない。

文部科学省では、「学習評価は、児童生徒に『どういった力が身についたのか』という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするために在り方が大切だ」と言っています。「あゆみ」でお伝えする評価や評定は、毎時間の学習で行った学習評価を総括したものですので、大切にしたいことは同じです。「あゆみ」を学習や生活の結果を表したものとするだけでなく、これからの学習や生活を考えるための資料としたいのです。自分のよさを知り、これからどんな力をつけていったらよいか、どんな力をより伸ばしていったらよいかなどを考え、これからの学習や生活へ意欲をもてるように、ご家庭でも声掛けをお願いいたします。子どもたち一人ひとりがより豊かに成長できるよう、これからも保護者の皆様とともに、手を携えていきたいと考えます。